

## 平成28年度第2回酒田市行財政改革推進委員会記録

と き 平成29年2月10日（金）午前10時～11時30分

と ころ 酒田市民会館「希望ホール」3階小ホール

~~~~~

### 出席委員（21名）

|             |             |
|-------------|-------------|
| 富 樫 幸 宏 委 員 | 江 口 暢 子 委 員 |
| 進 藤 晃 委 員   | 齋 藤 直 委 員   |
| 大 壁 洋 平 委 員 | 伊 藤 則 義 委 員 |
| 佐 藤 丈 夫 委 員 | 齋 藤 繁 委 員   |
| 佐 藤 力 委 員   | 小 柴 勝 委 員   |
| 工 藤 吉 郎 委 員 | 小 田 和 夫 委 員 |
| 佐 藤 和 子 委 員 | 高 橋 理 恵 委 員 |
| 若 村 光 司 委 員 | 阿 部 直 善 委 員 |
| 齋 藤 緑 委 員   | 富 士 直 志 委 員 |
| 伊 藤 正 佳 委 員 | 本 間 江 委 員   |
| 石 川 舞 委 員   |             |

### 欠席委員（3名）

|             |             |
|-------------|-------------|
| 吉 川 哲 央 委 員 | 山 岸 文 章 委 員 |
| 三 木 潤 一 委 員 |             |

~~~~~

### 市側出席者（17名）

丸 山 至	酒 田 市 長	本 間 匡 志	総 務 部 長
永 田 斉	総務部市長公室調整監	中 川 崇	企 画 振 興 部 長
渋 谷 斉	市 民 部 長	岩 堀 慎 司	健 康 福 祉 部 長
成 澤 嘉 昭	農 林 水 産 部 長	秋 葉 弘 毅	農 林 水 産 部 水 産 林 政 調 整 監
田 中 愛 久	商 工 観 光 部 長	伊 藤 優	水 道 部 長
大 石 薫	教 育 部 長	杉 原 久	議 会 事 務 局 長
須 藤 秀 明	会 計 管 理 者	高 橋 弘	市 民 部 環 境 衛 生 調 整 監
菅 原 司 芝	総 務 部 総 務 課 長	莊 司 忠 和	総 務 部 財 政 課 長
村 上 清 明	建 設 部 土 木 課 長		

**事務局出席者（4名）**

熊谷 智 行財政改革推進主幹      金野 洋 和 行財政改革推進室次長  
齋藤 奈 美 行財政改革推進室主任      佐藤 創 行財政改革推進室主任

~~~~~

**次 第**

1. 開 会
2. 市長あいさつ
3. 会長あいさつ
4. 協 議  
（1）酒田市行財政改革推進計画の進捗状況について  
（2）その他
5. 閉 会

~~~~~

**1. 開 会**

○金野洋和次長 ただいまより、平成28年度第2回酒田市行財政改革推進委員会を開会します。吉川哲央委員、山岸文章委員の2名より欠席の連絡をいただいております。齋藤 緑委員、三木潤一委員より遅刻の連絡をいただいておりますのでご報告いたします。それでは開会にあたりまして市長よりごあいさつ申し上げます。

~~~~~

**2. 市長あいさつ**

○丸山至市長 酒田市行財政改革推進委員会の開会にあたりまして、一言ごあいさつ申し上げます。ご承知のとおり皆様からご尽力をいただき策定した行財政改革推進計画もまもなく一年が終わろうとしています。この計画における実施計画につきましては、毎年度見直しをして、評価をして、そして次の一年につなげていこうという計画になっています。今年度が初年度ですので、今年の実績を踏まえた新たな数値目標を設定、あるいは今後の施策の予算との整合性が図られるこの時期の開催というのは時宜を得た開催だと思っております。行財政改革推進計画ですが、まずは行政コストを圧縮するとい

量的な改革を主にはしつつも、行政サービスの充実という質的な改革を取り込んだ内容の計画としており、市民の参画、連携、協働といった表現を借りてお示ししています。このことについては、再来年度を初年度とする酒田市総合計画の策定に平成28年度から取り組んでいます。総合計画未来会議を立ち上げて、120名以上の市民の方々から議論をしてもらって、総合計画の基本構想、計画作りに汗をかいてもらっているところです。市民参画、連携、協働の実践として、我々も取り組んでおります。いずれこの場で評価をいただける機会があればと思っております。少子高齢化、人口減少社会について、市民の皆さんから関心を持ってもらって、議論をしていただいた上で、色々な計画を前に進めていかなければならない時期、これが今の地方都市を取り巻く環境だと思っております。こういった市民参画、市民との協働、連携についてもしっかりと行財政改革の範疇の中で議論して、取り組みのあり方について、皆様からご意見をいただきました。今日は、今年度初年度となります酒田市行財政改革推進計画の実施計画について、進捗状況を後ほど事務局からご説明しますが、ぜひ、これはおかしいのではないか、こういう評価であるべきではないか等忌憚のないご意見をいただいて、この行財政改革という面においても市民の参画、市民との協働というものを、計画の推進そのものにも活かしていきたいと思っております。限られた時間の中で、濃密な議論は難しいのかもしれませんが、活発なご意見をご期待申し上げましてあいさつにかえさせていただきます。

~~~~~

### 3. 会長あいさつ

- 金野洋和次長 続いて阿部会長からあいさつをいただきます。
- 阿部直善会長 本日はご出席いただきましてありがとうございます。私たちは一昨年の6月2日に任期がスタートしましたが、その中で現在の行財政改革推進計画の基本計画、実施計画の策定に携わってきました。その中で、実施計画については、市の進捗状況を見ながら毎年度見直しをされて、その結果を報告し、この場で協議をし、次につないでいくことになっています。今日が本年度2回目の委員会ですが、皆様からは積極的なご意見を賜りたいと思います。なお、質問も大事なわけですが、この計画は、市長の言葉をお借りすれば、市民参画、協働、連携して安定した基盤を作るでもありますので、この計画が身のあるものとなりますよう、皆様から様々なご提言を賜ればと思いますので、よろしくお願ひします。

~~~~~

### 4. 協議

○金野洋和次長 次第に従い、協議に進ませていただきたいと思います。大変恐縮ではありますが、3箇所資料の訂正をお願いします。資料の1、29ページの項目番号44番「市立保育園の統合と民間移管方針の策定」のうち、一番下の項目、対象園移管実施の項目については、スケジュールが変更されておりますので、削除をお願いします。新旧対照表は修正されております。二つ目は資料2、1ページ(2)数値目標の状況において、23項目となっておりますが、26項目に修正をお願いします。資料2、11ページ、右の表の見直し後実施計画、項目番号63番の数値目標40億を50億に修正をお願いします。資料1は修正しております。お手数をおかけし大変申し訳ございません。それでは協議に進ませていただきます。以降の進行については、会長よりお願いします。

~~~~~

### (1) 酒田市行財政改革推進計画の進捗状況について

○阿部直善会長 それでは協議に入ります。資料1、資料2の行財政推進計画の推進状況について説明を事務局から事務局から説明をお願いします。

○熊谷智主幹 (資料に基づき説明)

○阿部直善会長 事前に資料が配布されておりますので、目を通していただいていると思いますので、それを踏まえて進めさせていただきます。これから資料1、資料2につきましてご意見・ご質問を受けたいと思います。なお、さきほど私の冒頭のあいさつで、任期が一昨年6月2日にスタートしたと申し上げましたが、任期が2年ですので今年の6月1日で現委員の任期は終了します。もうすぐ28年度が終わり、29年度に入りますが、出納閉鎖も5月までかかるということですので、次のこの委員会は6月1日以降になると考えられます。大事がなければ今の委員としては最後の委員会になるかもしれませんので、その点を踏まえて思い残しのないように、ご意見等いただければと思います。また質問していただくことも大事ですが、合わせてご提言等もいただければと思います。また委員同士で意見交換していただいても結構だと思います。また、ご質問していただく際には、市当局からの要望で、ページではなく項目番号をおっしゃっていただきたいと思いますのでご協力をお願いします。それでは発言の際、挙手の上、お名前を添えてご発言をお願いします。

○伊藤則義委員 自治会連合会連絡協議会の会長をしております伊藤です。資料2の項目番号34番「住民主導のまちづく活動の推進・支援」の「介護予防・日常生活支援総合事業の推進」とあります。改定され、目標が32年度までコミ振全部が整うことになっているようですが、どこのコミ振も、内容もわからないということもありますが、自治会長

自体が70歳を超えていて、介護するというより介護されるような人がずいぶん多い。私ももう1か月で80歳です。連絡協議会の会長も今回で終わることになると思います。これからは高齢者対策が一番だと思います。市長がおっしゃるには人づくりが大事だということですが、こういう事業を進めるにしても、人をどう確保するかが問題なんです。各コミセンに一人、市役所のOBみたいな全部知っている人を張り付けてくれるようお願いしたんですが、包括支援センターで面倒を見るんだからいいということで蹴られています。ですが、たぶんどのコミセンも動こうという気配がないような気がします。ある程度指針が決まって、どういう風にやればいいのか示してほしいと介護保険委員会でも言っていますが、ゼロからのスタートなんです。初年度20万、次から15万円預けられて各コミセンが何をするのか見通しが立たない状況です。高齢者の居場所づくり、各コミセン一か所となっていますが、コミセンに来られる人は介護はいらぬ人たちです。各自治会単位ぐらいじゃないと立ち行かない気がします。その辺を含めて、対策が必要だと思っているところです。

○阿部直善会長 結構どこのコミセンでも同じ印象を持っているということは聞こえてきていますが、関連して何かありますか。

○工藤吉郎委員 今おっしゃっていただいたとおり、コミセンまで来られる人は元気な人なんです。元気な方を見ますと、コミセンのサークルに参加したりして、色々と活動をしています。きめ細かな対応をするならば自治会単位だと思います。高齢化しますと、車を運転できないということもありますので、そこは重点的に対応が必要だと思います。

○岩堀慎司健康福祉部長 今のご質問に的確な回答ではないかもしれませんが、平成29年度からはじまる新総合事業については、その対象者は要支援1、2の方、あるいはそれよりも軽度の方で、要介護認定、要支援認定に当たらない方ですので、まずは広くコミュニティの範囲の中で、通所あるいは訪問という形でのサービスを提供していただければと思っています。その前段階、例えば自治会単位となりますと、市単独で取り組んでおります、「軽度生活援助事業」を活用していただきながら、この活動をコミュニティ単位に広げていただければと思っています。やはり、障害の程度が上がってきますと、おっしゃるとおり、その場に行くのも大変だということは承知しておりますので、介護保険の活用の中で検討していきたいと思っています。

○佐藤力委員 平田自治会長会の代表をしております佐藤です。改革目標2、市民参画のことですが、これは合理化という類のものではありませんが、やはり時代の要請で、保育園関係で、平田に関しては、平成29年度から3つの保育園が統合になって、平成28年度、平田保育園が増築され、定員が150人になります。先日、会合があつて具体的な内容を聞いたところ、庁舎やめんたま畑もあり、立地状況が良いので、大変ありがたいことに150名の定員に対して180名の申し込みがあつたと聞きました。敷地的には余裕があるということで、160名を受け入れることができたということです。少子高齢化ということで何年後かには定員を超えることはなくなるかもしれませんが、少なくとも今現在は定員を超えているわけですので、読みが甘かったのではないかと思います。

ます。入られなかった20名の方に対して行政としてどう対応しているのでしょうか。あと一点は、私は行財政改革の取組みの中で受益者負担もあり得るのではないかと考えております。特に先日の資料によると、県内13市のなかで市民一人当たりごみの搬出量が一番多いと聞いて驚きました。我々コミュニティ振興会、自治会としてもこの現状をみなさんに話をしております。ごみも含めてどのように公平公正に受益者負担を求めていくのかお聞きしたいと思います。

○**岩堀慎司健康福祉部長** 平田保育園は統合についての定員と、入園希望の対応がどうなっているかというご質問でした、定員は、当初150名定員と設定しておりましたが、平成27年度から新しい子ども子育て制度が発足されまして、保育に欠ける状態から、保育の必要度に応じてサービスを提供していきましようということで、幼稚園も保育園機能を持った認定こども園という形で、保育機能が充実してまいりました。今までは祖父母がいれば保育園に入れないという状況があったのですが、それもなくなり条件が緩和してきました。また、お母さんが求職中でも申し込むことができるようになっていますが、優先度としてはやはり低くなってしまいます。そうした中で、平田地域においては大変喜ばしいことで、出生数が増えておりまして、0歳から1歳の保育園の入所希望がこれまでと比べて増えてきております。子ども子育て支援制度が定着してきたということと、酒田市独自の保育に対する保育料の軽減策が功を奏して、女性の社会進出も進んできたと思っております。平田地域におきましては20名の定員超過があるのではないかとご指摘をいただきましたが、保育園につきましては、学区という考え方がございません。市全体で利用調整を図るということで、例えば近くの保育園、例えばお母さんが働いた場合の近くの保育園が空いている状況もありますので、利用についての調整をさせていただいております。その中で20名の大半の方々は近隣の保育園、あるいは市街地の保育園の方へと了承を得ているところです。ただ、お母さんが今現在まだ求職中で、特定の平田保育園を希望している場合、なかなか今の状況では入ることができず、そういった方々が4名ほどで待機という状況です。また、年度途中になりますと、さらに産休明け、育休明けで復帰したいという優先度が高い方も出てきてまいりますので、そういった方々のニーズも踏まえて利用調整をさせていただいております。

○**阿部直善会長** まず、市の回答を先にしたいと思いますので、次に受益者負担についてどう検討しているかについてお願いします。

○**本間匡志総務部長** 公平公正な受益者負担についてどう見直しをしていくのかというご質問がありましたが、酒田市の使用料を見ますと、他市よりも低い状況にあり、一人当たりの受益者負担も低水準となっております。そこは財政状況をカバーする上では、他市との競争から負けてしまうという状況です。これまで長い間、各施設の使用料等については見直しをしてきておりません。加えまして平成17年に合併をしたときから、旧1市3町の基準が統一化されていなかったという状況もあります。その辺については見直しをしたいと考えておりまして、今、30年度に向けて見直しを検討したいと思っております。また、減免基準についても少しあいまいな部分があります。例えば主催・

共催などの位置づけで、スポーツ施設、文化施設で違うところがありますので、基準の整理もしたいと考えております。それからごみの有料化につきましても、これまで行財政改革推進計画の中でも議論されてきております。委員ご指摘のように、県内ではごみ排出量が一番高いという状況も踏まえて進めていければと思っております。ただ、実施するかどうかは市民の皆さまの意見、議会のみなさまの意見を十分に聞いて進めていきたいということで、29年度1年間をかけて丁寧に説明しながら、意見を聴きながら進めていきたいと考えております。

- 佐藤力委員 よくわかりました。ありがとうございました。保育園に関しては、閉園した跡地の関係で、地元の意向として何とか再利用をしたいという声がありますが、そのことについては、行財政改革の一環として、解体、更地にして、売却するのか、あるいは住民の声を聞いて利活用をするのか、その方向性について現段階で考え方があるのかお聞きしたいと思います。
- 本間匡志総務部長 保育園跡地の考え方については、今のところ現段階でどうしていくかという方針は決まっておられません。ただ未利用資産の有効活用は進めていかなければなりませんので、有効活用、あるいは必要であれば売却という話もあるかと思えますけれども、並行して検討していきたいと思えます。これまで東平田の小学校の跡地はさくら公園になっていますし、このように地元のみなさんから提案をいただきながら整備や有効活用をしてきた経過もありますので、地元の皆さんのご意見を聴きながら進めていきたいと思えます。
- 阿部直善会長 地元の方々と議論して進めていただければと思えます。そのほかにありませんか。
- 伊藤正佳副会長 一点目は提言ですが、項目番号63番、「新たな自主財源の確保の検討」の「応援したくなるふるさと納税制度の再構築」、酒田市でもだいぶふるさと納税が好調ということで、市の財政からみれば非常に喜ばしいことだと思っております。ただ、収入面を記載されておりますが、酒田市の財源を確保するという意味では、当然返礼品に要する費用もあると思えます。その費用を踏まえた市の本当に使えるお金としてどのくらい残るか記載したほうが良いかと思えます。また他市町村との競争が激しくなっていく中で、統計値として取ればという話なんです、酒田市民が他の市区町村にふるさと納税をしていて、本来酒田市に納税すべき金額が、よそに逃げています金額もあるわけなので、収支を見た場合に、実際によそに逃げています方が多いというケースがあるのかどうか、統計値として取ればと思えます。よそから負けているのであれば、いかにして魅力あるメニューを用意してよそからお金をひっぱってくるかということの方針付けにもなるかと思えます。その辺次回以降、資料に入りきるのであればお願いしたいと思います。もう一点は、取組み番号54番の「東北公益文科大学と連携したまちづくりの推進」「市民大学講座の充実」ですが、当初の計画だと平成32年度まで継続して実施とありますが、見直し後は平成28年度で終了となっています。これは説明がなかったのですが、思ったほど効果が上がらないということなのか、今後は継続していけない事情

があるのかお伺いできればと思います。最後にちょっと苦言を呈するわけではないのですが、今回スケジュールの変更が総じて前倒しではなくて、後ろ倒しになっている傾向が多くあります。日々、市職員の方々が努力されているのは重々承知の上なのですが、あまりいたずらに止めてしまうといつまでも延び延びになって、実施されないということになりかねませんので、今後こういったことに歯止めをかけるような取り組みをお願いいたします。

○阿部直善会長 3点にわたって質問、ご提言がありましたのでそれぞれ回答をお願いします。

○永田斉市長公室調整監 ふるさと納税のことでご提言をいただきました。今のふるさと納税の酒田市の取組みといたしましては、寄付をいただいた約半分の額の返礼品をおあげすることにしておりまして、金額的には約54%がかかっております。ふるさと納税は財源確保という面もありますが、地元産品のPRの絶好の機会ととらえております。PRさせていただくと同時に、地元産品を買い上げて、地元の経済効果を上げるということもありますので、原価のところは約半分としております。今、全国的に激しい競争がありますが、まずはこの中で取り組んで行こうということで、返礼品の種類を増やしたり、ポータルサイトに参加をさせていただいて、今回変更させていただいたとおり大変好調で、昨年より4倍近くの寄付をいただいているところです。それから、酒田市から他市へふるさと納税をした結果、税の補てんをする金額につきましては、27年度決算の数字はありまして、27年度は2億4千4百万円のご寄付をいただいたわけですが、税金として補てんをした額は約5千万円位の状況です。28年度は決算をしてみないとわかりませんので、数字が出るのが来年度の9月近くになるかと思っております。これは資料としてご提供させていただきたいと思っております。

○大石薫教育部長 公益文科大学と提携した市民大学講座ですが、公益文科大学の開学した当時の市民大学講座は年間受講者延べ人数が1,500人でした。それ以降についても、400人から600人ぐらいで推移をしているところです。ところが、最近では大学が自主的に公開講座をしており、充実してきている関係もありまして、直近ですと148人程度の参加にとどまっている状況ですので、いったん見直しをして、大学の公開講座の方を充実されているということで、市としても一緒にPRし、そちらを活用していただこうと考えております。なお、大学との連携については、現在、学生との協働で新たな事業に取り組んでいるところで、そちらにシフトしていこうと思っております。

○阿部直善会長 スケジュールについてのご提言についてはいかがですか。

○本間匡志総務部長 スケジュールについて先送りをしている事業が多いとの指摘がありました。どうしても課題や壁にぶつかっている事業がありまして、ただ漫然というわけではなく、その解決のためには次の年度での予算化など、仕込みをしているところですが、なお、そういったことのないようにしていきます。

○阿部直善会長 今日は11時30分終了ということですので、話し忘れたということの

ないようお願いします。

- 工藤吉郎委員** 項目番号5番「市民意識調査の実施」の目標値について、アンケート結果が住みよいと回答したパーセントが100%とありますが、アンケートの取り方にも相当左右されるわけです。今、人口減少が進んで、若者がどんどん県外に出ていく状況で、アンケートの取り方でずいぶん変わってくると思いますが、どういうアンケートなのかその点についてお伺いします。
- 中川崇企画振興部長** 市民アンケート詳細につきましては、昨年度策定しました酒田市の総合戦略の基本目標の4番目、安心して住み続けられる酒田というものを推進していくための指標として、アンケート調査で満足度を100%にしていくと掲げております。今年度につきましては、1月に実施をしており、今集計をしておりますが、基本的には、地区別、年代別に抽出をして、広くとらえているところです。質問は、住みやすいと思えますか、住み続けたいと思えますかというような質問のほか、例えば自然環境の豊かさ、住宅事情、交通の便などの細目を設けまして、様々な観点から、満足している、どちらかという満足している、不満があるなどのランクを5段階ほどに分け、それに基づいて状況や課題を抽出しようとしているところです。100%というのは高いかもしれませんが、より満足度が上がるように取組みをしているところです。
- 阿部直善会長** ほかにありませんか。
- 本間江委員** 先ほどお話がありましたふるさと返礼品の件ですが、お願いというか、提言ですが、返礼品ほしさに例えばパソコンだとか、地元企業じゃないところにお金が落ちてしまうことが問題だということが新聞報道でありました。できれば選定する際に地元にお金が落ちるようなものを考えていただきたい。それと、返礼品自体が通信販売で買えるようなものでは魅力がないわけで、ふるさと納税をしないともらえない限定品など、商品開発などにつながっていけば良いと思います。最終的に酒田市に還元されるような、経済として回るような方向でお願いします。もう一点、質問ですが、よく市長にご提言を差し上げているので、考えられているのだと思いますが、項目番号9番、「カイゼンサポーターによる業務改善運動の展開」では例えばどんな感じで進められているのか、こういうことをやってこういう効果が出ているのか具体的な活動を教えていただきたい。
- 阿部直善会長** それではふるさと納税の方から回答をお願いします。
- 永田斉市長公室調整監** 提言ありがとうございました。ご提言いただいたとおり、必ず返礼品については地元で生産をしているものに限って登録をしております。特徴的なのは、総務省の見解が色々ありますが、本間ゴルフさんのクラブですとか、エプソンさんの酒田工場で作っているもの、地元こだわった返礼品を用意しているところです。さらに新たな取り組みとしては、北前船をモチーフにしたお菓子を作っているお店が何軒かありますが、そこにお声掛けして、それを一つにして返礼品でしか買えないようなものにしてあります。お酒に関してもそうした取り組みをはじめているところです。そういった他にないものをお示ししながら、応援をしていただくような取り組み

を進めていきたいと思っております。

- 本間匡志総務部長** カイゼンサポーターによる業務改善運動の具体的な取組みについてご質問がありましたが、カイゼンサポーターが30名ほどおりますが、組織横断的に活動したり、各部署の若手中心に改善施策を展開しております。例えば、窓口業務の書式の効率化、簡素化してできるようにという事例もあります。それぞれ一枚ずつ申請が必要なところを書式統一して一枚で出来ないかと取組み、実施しているところです。また、今回の未利用資産の項目の売却仲介制度の導入について、未利用施設の売り払いについては、通常一般競争入札という形になりますが、売れ残り物件が出ます。それに対して不動産業者さんを通じて、物件購入希望者を紹介してもらうという発案をした、というのも業務改善の中での実績になります。少しずつ実際の業務に取り入れているということです。
- 本間江委員** 例えば、本間ゴルフは東京の企業ですよね。エプソンも長野の企業です。できれば地元の企業で、最終的に地元で税金が落ちるようにお願いいたします。
- 富士直志委員** 項目番号55番、「東北公益文科大学生の地元定着の促進」ですが、とてもいいアイデアだと思っております。すでに医学部については、県もやられておりますので、参考にしながらなのかと見させていただきました。質問ですが、公益大学以外の看護学校、産業技術大学の地元定着はどうなっているのかお聞きしたい。それぞれで学校自体もがんばっているのは承知しておりますが、増えているのか減っているのかわかれば教えていただきたい。もう一つは、現在、公益大学の学生は、酒田市にどのぐらい就職をしているのか、人数でも割合でも分かれば教えてください。目標が予約申請者数10名となっているので、それが今後どうするのかお聞きしたい。奨学金返還制度は、在学中に周知することが大事ですので、説明会も開きながら周知をされていると思いますが、今後の方向性についてお聞かせください。
- 岩堀慎司健康福祉部長** 酒田看護専門学校の地元の定着状況については、今年度末で第5回目の卒業になりますが、一学年30名定員の3学年ありますので、90名の学生がいます。毎年、本市の総合病院を中心にして就職をしておりますが、例えば、今年度卒業の生徒ですと、30名中20名が市内の病院に内定しています。本市はじめ秋田県南、最上あたりから入学していますが、2月の中旬の国家試験に合格して初めて決まります。年によって波はありますが、こちらの開設の目的が地元定着ですので、学校一丸となってその方向でやっております。
- 中川崇企画振興部長** 公益大学の地元定着の奨学金返還補助金については、今年度募集をして、実際の支援については、今年度の卒業生から適用されます。公益大学の奨学金の返還支援制度については、新制度につきましては、日本大学推進機構の奨学金を借りている方、他の自治体等の奨学金を借りている方の奨学金支援を対象としています。卒業後3年間酒田に定住されている期間において、奨学金の返還の半分程度を補助する形となっています。公益大の地元定着については、正確な数値は持っておりませんが、一定程度残っていただいていると思います。現在、制度につきましては、要綱を策定して

おりまして、制度の周知自体は今年度予算措置をしている関係上、夏に学生に説明をしております。今後も、制度を知っていただいて、制度を活用していただきたいと思います。

- 田中愛久商工観光部長 県立産業技術大学庄内校については、地元定着率の正確な数字は、申し訳有りませんが持ち合わせておりません。ただ、市内の企業さんに聞きますと、前年度採用した方の中に、産業技術短大庄内校の卒業者がいらっしゃるということで、かなりの比率で市内、近隣の方に勤めていらっしゃるかと考えております。一番問題なのは、この頃、国際経営科を中心にこの頃、定員割れをしておりますので、その点については、県と協力しながら生徒の確保に努めたいと考えております。
- 富士直志委員 公益大に関しては、そういう生徒は義理堅いと思います。地元定着というだけでなく企業で中心となられるようがんばっていただきたい。
- 石川 舞委員 大学関係についてですが、市民大学については正直私もやっていることを知らなくて、大学の中で先生がやっている講座は知っていたのでよく参加していましたが、市役所と連携した講座は知らなかったもので、認知度の面から廃止して、違う連携の施策が良いと思います。酒田市に就職した方の奨学金免除については、今年から聞いた話です。私は今年卒業して、奨学金は借りてないので、酒田市に就職することは出来たのですが、同級生で奨学金を借りている人だと地元就職すると、全額免除だから地元に戻るという人が多くて、その中で酒田市に就職しても、新卒の給料で奨学金を返しつつ一人暮らしをするというのは相当辛いことだと思うので、その点からも実家に帰って、実家暮らしで奨学金を免除してもらおうという人が多いので、できれば半額よりももうちょっと大きい金額だともっと増えると思いました。
- 阿部直善会長 バランスシートを考えてみると、実家に帰ったほうが良いということもありますね。ほかにありませんか。
- 齋藤緑委員 前半でご説明があったかもしれませんが、一番の問題が人口減少なので、この人口減少に対して行革としてどのようにしていくかという視点で、項目1、項目38、44ぐらいしか該当しないのかと思いました。項目番号38については、新規で数値目標が掲げられていたり、さきほど部長がおっしゃったように保育園、空き家等の環境は整備されていると思いますが、人口減少が進んでいって、マイナスの数字が並んでいる。今後、酒田市内の部落もなくなっていく可能性もある中で、先ほど地域コーディネーター、地域づくりの研修、ワークショップだけでなく具体的なまちづくりをしていただきたいと思います。何が言いたいかというと、若い人たちが酒田に帰ってきてほしい、それから女性の方たちが安心して子どもを産み育てられるような社会にしてほしい、そうすれば早く酒田に帰ってらっしゃいと言えるような目標があるとうれしいと思いました。
- 阿部直善会長 感想でも何でも結構ですので、ご意見等ありませんか。
- 本間江委員 最後に、今年新聞記事で、交通事故を起こして、飲酒運転をして交通事故を起こして逃げたと新聞に出ていました。1000人も職員がいるからやる人がいても

仕方ないというのかもしれませんが、やはり、許されない。職員の意識改革と関連してくるのかもしれませんが、この人は御用納めで職員の方と一緒に飲んで、飲酒運転。普通、会社だと会社の行事に絡んで飲酒運転は絶対にダメですよ。会社だと幹事の方が「帰りどうすんな？」と必ず言われます。個人でしたら仕方ないですけど、会社の行事で絡んで酒を飲んだら、それは会社の責任になります。この方は市の職員の方と飲んで、飲酒運転をして帰ってしまっていると。何が言いたいかというと、職員の皆さんの日頃の関係性、信頼性というか、心配するような気持ちが薄いような気がします。お酒をいっぱい飲んで、判断力がなくなっていると思ったら、タクシーに乗せて帰らせていいと思います。そういう心配する気持ちも仕事に必要なだと思うんです。古い話になりますが、市長さんへのメールで書いたこともあります。例えば2007年に、酒田市の市長部局の方が仕事に連日3時間、わけつなホームページを見て、市のパソコンをウィルス感染させました。これが外部の方から「おたくのパソコン、ウィルスに感染してますよ」と指摘されているんです。もう一つ、2007年、これは福祉課の方、医療扶助のパソコンの使い方がわからなかったと、2年間で706件の書類をロッカーにため込んでしまった。これも上司の方から何も言われてないんです。山形市から「あがってくる書類があがってこないからどうなってるの」と外部から指摘されています。一日3時間パソコン見てて、おかしいよって誰も言わないわけですよ。ロッカーに706件書類ため込んでいて2年間書類が上がって来なくて上司の方が何もいわないんですよ。中で何をやっているのと市民はすごく心配だと思います。ですから、私が言いたいのは、関係性をしっかりお願いします。たとえば、ノミニケーションもあるかもしれないです。古いかもしれませんが、お昼ご飯を一緒に食べたりとか、色んなことで、若い人、年をとった人、横のつながり、縦のつながり色んなものがあって、目を配って、サボっていると怒ったりする必要はないかもしれませんが、困っている人がいたら助けてあげてないものではないのでしょうか。ぜひそういうことを本当にお願ひします。

○阿部直善会長 提言を含めていただきましたので、これに関して、市長からお願いいたします。

○丸山至市長 活発な意見をいただきありがとうございました。大変参考になりました。最後に本間さんから言われたことについては、弁解いたしません。ご指摘の通りだと思いますので、そのような事がないようにしっかりと指示、徹底していきたく思っております。やはり人と人と心を通わせながら、どの組織でも同じだと思います。しっかりと取り組んでいきたいと思ひます。

○阿部直善会長 どうもありがとうございました。それではそろそろ閉めたいと思ひますが、その他何かありませんか。ないようですので、以上で協議は終了します。ご協力ありがとうございました。会長として最後に申しあげておきたいのですが、いただいた意見、感想を踏まえて、具体的な提言もありましたので、次の会議時に資料として、間に合うものはつめていただくことを願ひしたいと思ひます。そして、いただいた意見・提言を踏まえて計画の見直しをしていっていただきたいと思ひます。少しだけ気になっ

ているのですが、伊藤委員、齋藤委員からもありましたが、市でやろうとしている施策が実は地元では大変だと、市の想いと地域の受け止め方に差があると事実あると思います。特に介護保険もそうですし、介護保険の制度改正で言えば生活支援コーディネーターを置く、さきほどの地域コーディネーターを要請する。それはそれぞれ違う部局が担当している。それを総合的に考える部局があればと思いますので、合わせて考えていただきたい。また、色々な非正規職員なり日々雇用職員の保育士さんの給与改善が国レベルで働き方改革として進められています。定員管理の問題も変わってくるかも知れませんので、外の動きも含めて計画を進めていただければと思います。会長の立場を利用して言わせていただきましたが、皆さんからは本当にご協力いただき、ありがとうございました。それでは事務局にお返しします。

~~~~~

## 5. 閉 会

○金野洋和次長 委員の皆さんからはご提言、ご意見をたくさんいただき、また活発な議論をいただきありがとうございました。次につなげてまいります。本日の内容につきましては、会議録を作成して皆様に送付したいと思います。阿部会長からも触れていただきましたが、おおきな変動等がない限り、現体制による委員会の開催については、今回が最終になると考えております。皆様からは計画の策定からご尽力をいただきましたことに感謝を申し上げますとともに、今後とも本市行財政改革に対してご指導ご協力を賜りたいと思います。どうぞよろしく願いいたします。以上をもちまして、平成28年度第2回行財政改革推進委員会を閉会します。

午後11時30分 閉 会